

5) 大久保地域 (河西)

最上川の氾濫原だったことを示す村名大久保と治水の歴史、新田開発の「宝田」

・大久保村

最上川により削られ窪地になったため大窪村という村名になったと伝えられています。元是最上川旧河道の西に位置していた地区で、旧河道の名残が大久保地区の現在の形状に残されています。宝鏡寺には大久保古城があり、最上氏系図によれば、最上満直の三男満頼が当地に分封されたと思われれます。

最上氏領から元和8年(1622)新庄藩領となり、上谷地郷に属しました。『新田本村鑑』には枝郷として平野が記されています。元禄13年(1675)以前に稲下村と分村します。『天保郷帳』では高2374石余の当村と、枝郷として稲下村が記されていて250文を上納しています。

『天保郷帳』では高2374石余の当村と、枝郷として稲下村が記されていて250文を上納しています。

・宝田村

享保20年(1735)以降の新田村で、新庄藩領となりました。もと大原村といい、新田本村鑑には大原村の両所権現の所在地として宝田の地名があります。『吉村本村鑑』の宝田村の項に「大原村享保廿辰(原文ママ)年、高谷長四郎新田開発新村相立、湯野沢大久保村岩木村より畑方野方相渡申候」とあり、新田本村鑑の大原村の項にも同様の記述があります。吉村本枝郷に西原があります。庄屋は大久保村庄屋の兼帯でした。



図 14. 大久保地域の指定文化財

6) 富本地域 (河西)

葉山薬師参詣の表参道、近世からの記録を残す大円院、熊野大祭の伝統を継承する集落

・湯野沢村

西方山中に鉱泉があり(富本温泉)、村名のもととなりました。最上氏領より元和8年(1622)新庄藩領となり、上谷地郷に属しました。新田本村鑑には枝郷として吹上・水走が記されています。元和8年の御前帳写では湯之沢村とあり、高2664石余です。元禄13年(1700)には湯野沢村2096石余・樽石村320石余・長善寺村273石余・水口村128石余と4分されており、元禄年間に分村したとみられます(新田本村鑑)。『天保郷帳』では高2133石余の当村と、枝郷として樽石村・長善寺村・水口村が記されています。

このうち樽石村・長善寺村は他の史料



図 15. 富本地域の指定文化財